

平成 27 年度「オリンピック・パラリンピック教育モデル推進校」 事業実施報告書

- I スポーツへの誘い 自己肯定感の醸成
- II 障害者や高齢者への理解 共生社会の形成
- III スポーツへの関心や競技力向上 スポーツボランティアへの参画
- IV オリンピック・パラリンピックに向けた京都の伝統や文化等の発信
- V 児童生徒オリンピック、パラリンピックを通じた国際理解教育の推進

実践事業	【 II 】	I～Vを記入して下さい。		
学校名	京都府立 八幡支援学校	全校生徒数	129名	
実践学年、部、講座等	高等部			
目 標 (ねらい)	オリンピズムの観点(○印) <重複可>	友情 (○)	卓越 ()	尊重 (○)
	<p>パラリンピック種目に関心を持つと共に、京都八幡高等学校とのスポーツを通じた交流及び共同学習を充実させる。</p> <p>生涯スポーツへの位置づけと共に、余暇活動を広げる。</p>			
実践内容	<p>12月7日(月)高等部就労デザイン2,3年生と京都八幡高等学校南キャンパス生徒と授業交流(ボッチャを実施)</p> <p>1月18日(月)高等部就労デザイン1,3年生と京都八幡高等学校南キャンパス生徒と授業交流(フライングディスクを実施)</p>			
実施上の留意点等	<p>職員研修 ボッチャ講習会10月29日(木)南山城支援学校主催6名参加 大会視察11月15日(日)障害者フライングディスク大会兵庫大会5名参加 大会視察12月26日(土)日本ボッチャ選手権大会本大会5名参加</p> <p>講習会参加及び大会視察を行うことにより、競技種目・特性を正確に理解し実施した。教員間でも交流授業前に研修し、よりよい共同学習に繋げるようにした。</p>			
主な成果 (分析結果)	<p>気軽に取り組める活動であることから、競技に親近感を持ち協力して競技を行うことにより、交流を充実させることが出来た。高等部生及び高校生より「楽しかった」「またやりたい」という感想があった。</p> <p>チーム編成も柔軟に対応でき、勝ち負けだけでなく互いを尊重し、競技を楽しむ姿勢が見られた。2月21日の京都府ボッチャ大会への参加チームが2チーム、1個人の申込があった。</p>			
主な課題等	<p>継続して実施すると共に、競技への関心を高め競技会への参加意欲を高めていくと共に、多くの活動の場で競技を広めていく必要がある。</p>			



1月の授業交流「フライングディスク」

